



記者会見資料

平成19年12月14日

大阪経済記者クラブ会員各位

「大阪活カグランプリ2007」グランプリ及び特別賞の発表について

【お問合せ先】

大阪商工会議所 広報企画担当（近藤、玉川）

TEL 06-6944-6324

1 本年度の被表彰者

○グランプリ：「シャープ株式会社」

【理 由】堺市に建設される液晶パネル工場・薄膜太陽電池工場は、雇用の拡大や関連企業の進出など、地域に大きな経済波及効果を与えることが期待される。

○特別賞：「大阪フィルハーモニー交響楽団 音楽監督 大植 英次 氏」

【理 由】指揮者として国際的に活躍する一方、創立60周年を迎えた大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として、「星空コンサート」や「大阪クラシック」など、大阪で気軽にクラシック音楽を楽しめる機会を創出している。

2 選考経過

- 11月2日、第1回選考委員会（委員長：灘本正博専務理事／マスコミ各社経済部長等18名で構成）において、ノミネートされた36候補から、10候補を選出。
- 11月28日、第2回選考委員会において、委員による投票を実施したところ、「シャープ株式会社」が最高得票を獲得し、グランプリに決定した。また、「大阪フィルハーモニー交響楽団 音楽監督 大植 英次 氏」に特別賞を贈ることとなった。

3 表彰式（プレスオープン）

- 12月14日開催の大商会員交流大会の冒頭で表彰式を行う。
 - ・表彰状（会頭名）とトロフィーを贈呈
 - ・今宮戎神社より記念品を贈呈
 - ・大阪企業家ミュージアム内にパネルを展示
- 表彰式出席予定者
 - ・グランプリ：シャープ株式会社 代表取締役会長 町田 勝彦 氏
 - ・特別賞：大阪フィルハーモニー交響楽団 事務局長 小野寺 昭爾 氏



参 考

【大阪活カグランプリ2007実施概要】

1. 趣 旨

大阪の地域経済・産業発展に多大の貢献を果たした個人、法人・団体・施設等を大阪商工会議所会頭名で表彰し、その貢献をたたえるとともに、大阪のチャレンジ精神・パイオニア精神の発信・高揚を図る。

2. 主 催

大阪商工会議所

3. 協 力

選考委員としてご協力いただけるマスコミ各社

4. 表彰対象

- ①対象者 : 個人、または法人・団体・施設等
- ②対象地域 : 大阪府内
- ③対象期間 : 平成18年12月～平成19年11月

5. 表彰要件

- ①大阪地域の経済振興・産業発展・イメージアップ等に貢献した個人、法人・団体・施設等。
- ②新機軸の製商品・サービスを開発、企業経営や事業推進等で革新的なビジネスモデルを導入、もしくは集客に多大の成功を収めた個人、法人・団体・施設等。

6. 審査手続き

- ①大阪商工会議所内に選考委員会を設置（9月常議員会）。
- ②選考委員に被表彰候補案件の推薦を依頼するとともに、大阪商工会議所議員・部会長・委員長・支部長各位に候補案件の推薦を依頼（10月）。
- ③第1回選考委員会で被表彰候補案件を絞り込み（11月2日）。
- ④第2回選考委員会で選考委員による投票を行い（11月28日）、正副会頭会議に候補案件を推薦。
- ⑤正副会頭会議において被表彰者を決定（12月14日）。



【大阪活カグランプリ2007選考委員会メンバー】

(順不同・敬称略)

委員長	大阪商工会議所	専務理事	灘本 正博
委員	朝日新聞大阪本社	経済エディター	曾根 宏司
	朝日放送	報道局次長	守山 周介
	NHK大阪放送局	視聴者センター(広報)部長	秦 秀人
	大阪日日新聞	常務取締役編集局長	畑山 博史
	関西テレビ放送	報道局長	堤田 泰夫
	共同通信大阪支社	大阪経済部長	平塚 仁
	産経新聞大阪本社	経済部長	廣瀬 千秋
	時事通信大阪支社	次長兼編集部長	長田 浩一
	テレビ大阪	取締役報道スポーツ局長	酒井 悟朗
	日刊工業新聞大阪支社	編集局長	曾根 洋一
	日本経済新聞大阪本社	経済部長	桑田 一郎
	毎日新聞大阪本社	編集局次長兼経済部長	中村 秀明
	毎日放送	報道局次長兼ニュースセンター長	西畑 善裕
	読売新聞大阪本社	経済部長	国松 徹
	読売テレビ放送	取締役報道局長	本田 邦章
	大阪商工会議所	常務理事・事務局長	西田 賢治
	大阪商工会議所	総務広報部長	児玉 達樹



【大阪活カグランプリ歴代被表彰者一覧】

○第1回グランプリ（平成14年12月）

＜グランプリ＞東大阪人工衛星プロジェクト

（理由：東大阪市の青木豊彦・アオキ社長を中心に取り組んでいるなにわの人工衛星づくりは、まだ現実にはなっていないが、中小企業の技術力の高さを示し、夢を与えた）

＜特別賞＞アンジェスMG

（理由：大阪大学の森下竜一助教授が創業し、9月25日に東証マザーズに上場。ゲノム創薬分野としても、大学発ベンチャーとしても初の上場を果たし、バイオベンチャーへの関心を集めた）

南堀江界限

（理由：かつて家具の街として栄えながら、取り残されていた「南堀江」を意欲とアイデアで、若者の街として再生。今や大阪になくてはならない街になっている）

○第2回グランプリ（平成15年12月）

＜グランプリ＞なんばパークス

（理由：大阪ミナミの拠点として当地のイメージの高揚に貢献するとともに、開業6日間で来場者数が100万人を突破するなど今後も継続的な経済効果が期待できる）

＜特別賞＞阪神タイガース

（理由：18年ぶりのリーグ優勝は沈みがちな関西人や関西経済を元気づけた。経済効果以上の活気を大阪の街に戻した貢献度は大きい）

○第3回グランプリ（平成16年12月）

＜グランプリ＞Team OSAKA

（理由：産学連携によるサッカーロボ「ヴィジオン」を開発。「ロボカップ」国内大会（5月・大阪）、国際大会（7月・ポルトガルリスボン）でともに優勝。また、吉本興業、ダイヘンなども加わり40社で6月に新組織「Roobo」を設立、ロボット普及に尽力している。）

＜特別賞＞該当なし



○第4回グランプリ（平成17年12月）

＜グランプリ＞グランプリ：「新生・そごうと“心ぶら”の復活」

（理由：そごう心齋橋本店が9月7日に5年ぶりに再オープンし、大阪ミナミに新たな賑わいの拠点が誕生。心齋橋筋商店街は、そごう開店を機に大人の街の復活に向け共同で取り組み。“心ぶら”という言葉も復活した感がある）

＜特 別 賞＞ガンバ大阪

（理由：Jリーグ発足後、関西勢として初のリーグ優勝を果たした）

○第5回グランプリ（平成18年12月）

＜グランプリ＞天満天神繁昌亭

（理由：官に頼らず市民の寄付により、大阪に60年ぶりとなる落語専門の定席を復活させた。伝統芸能という文化発信基地の常設で大阪のイメージアップに大きく貢献。さらに地元商店街の活性化も期待できる）

＜特 別 賞＞株式会社グローバルウイングス

（理由：ビジネスジェットサービス専門の航空ベンチャー。大企業をバックとしない独立ベンチャーで、関西国際空港を基地として利用するなど、大阪経済への貢献が期待できる）

以 上